

ウェストとウェスト文庫

工学部機械系三学科図書室 滝 沢 正 順

工学部の各学科図書室の所蔵資料のなかには、歴史的な意味のある資料がいくつかあります。たとえば社会基盤工学専攻図書室(土木工学科図書室)所蔵の古市文庫は、明治・大正時代の土木工学者の古市公威(1854~1934)の旧蔵書やフランス留学時代のノート等のコレクションで、1991年の『図書館の窓』(第30巻8・9合併号)に紹介されています。

また工学部の前身校のひとつである工部大学校の明治12年から18年までの卒業論文が、機械・造家・電信・冶金・鉱山の各科について現存していて、研究者に利用されたり展覧会に出展されたりしています。

ここに紹介するウェスト文庫はそうした歴史的な資料のひとつで、明治15年から41年まで工部大学校と(東京)帝国大学工科大学のお雇い外国人教師だったウェストCharles Dickinson West(1847~1908)の旧蔵書です。ウェスト旧蔵ノートとともに機械系三学科図書室に所蔵されています。

ウェストは明治15年に英国から来日し機械科と造船科で教えた人物です。来日後は、明治31年に一時帰国したことがある以外は25年間にわたって日本で教えつづけ、明治41年に日本で亡くなりました。墓は東京の青山霊園外人墓地にあり、工学部構内には明治43年3月に除幕式がおこなわれたウェストの胸像が建っています。

ウェストは国籍は英国ですがアイルランド人で、父はダブリンの聖パトリック大聖堂の主席司祭。弟たちは画家や医師、妹たちの夫には英文学者・詩人やパブリックスクール校長でスポーツ選手がいるというように近親者はバラエティーにとんでいます。

ウェストはダブリン大学を卒業後、造船所や

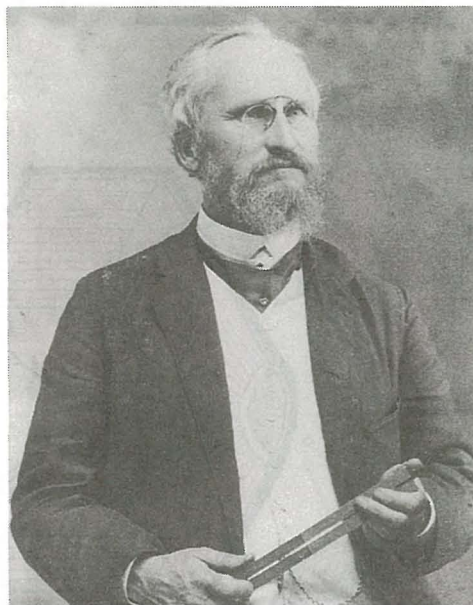


図1・ウェスト肖像

明治38年7月機械工学科卒業記念写真帖より。

機械工場で働いて実務経験もつんでいます。日本では25年間にわたる教育者としての側面がもっともおおきな部分をしめ、機械科と造船科の多くの学生を教えました。温厚で親しみやすい人柄で教えかたも懇切だったようです。

ウェストの著述はあまり知られていませんが、明治18年に工部大学校から冊子を2点刊行しているほか、明治16年の日本地震学会英文報告に地震計に関する文を発表しているのが確認できます。日本地震学会は、工部大学校からのウェストの同僚ジョン・ミルンらが結成した世界最初の地震学会ですが、ウェストは来日後に会員になっています。また地震動の加速度の大きさの計算のためのウェストの公式というものがあり、これはジョン・ミルンの地震学についての単行本と明治18年の日本地震学会英文報告のミルンの実験報告のなかにウェストによるものだとして記されています。

日本でのウェストは写真撮影とヨットが趣味でした。とくにヨットは複数のヨットクラブに所属し、横浜で週末にヨットレースを楽しんだり、神奈川県にある帝国大学理科大学の三崎臨海実験所をヨットで訪れたりしています。三崎臨海実験所での海洋生物採取にウェスト所有のヨットが使われたこともあったようです^(注1)。また造船科での授業でヨットの講義を行ったこともあります。

ウェストは同時期にすくなくとも4隻のヨットを所有していたこともあるなど、ヨットについて非常に熱心だったようです。日本でウェスト自身の設計によって作った「Ronin(浪人)」「Daimyo(大名)」という2隻のヨットがあり、「浪人」のほうは日本で最初に建造されたヨットであるとされていた時期もあったようです。

ウェストは明治32年にヘンリー・ダイヤーとともに(日本)機械学会の最初の名誉会員に推挙されています。また没後に日本での同僚や教え子によって工学部構内の銅像が建設さ

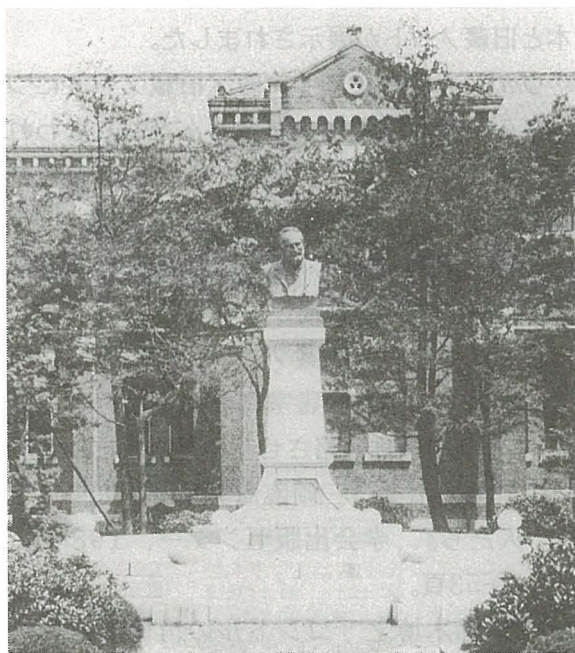


図2 ウェスト銅像

工学部構内。撮影年月不詳。除幕式は明治43年3月19日。

銅像と台座付属のパネルは沼田一雅の作。台座の設計と台座周辺の配置は、鹿鳴館などを設計したジョサイア・コンドルによるものです。

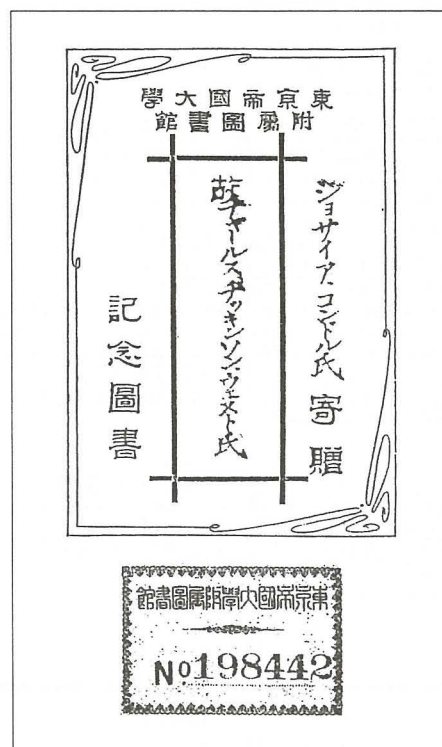


図3 ウェスト文庫蔵書票

この用紙は東京帝大の他の記念図書でも使われました。

れたほか、ウェストの妹の一人からの寄付金によってウェストを記念する奨学金が東京帝国大学に設けられ、機械工学科の成績優秀な学生に対して第二次世界大戦後まで授与されていました。

ウェスト文庫は単行本251冊と製本雑誌5タイトル149冊からなっています。ウェスト文庫はウェストの旧蔵書ですが、ウェストの工部大学時代からの同僚で鹿鳴館などの設計で知られる建築家ジョサイア・コンドルから、ウェストの死後に東京帝国大学に寄贈されたものです。寄贈者がコンドルであるのは、妻子をもたなかったウェストの遺品を処置する近親者が日本にいなかったためと思われます。東京帝国大学での受入登録の日付は大正3年7月31日になっています。

イギリスにいるコンドルの子孫の家には、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)がウェストに贈ったハーンの著書が現在あるそうなので^(注2)、ウェスト文庫の本はウェスト旧蔵書のすべてではないようです。それでもウェス

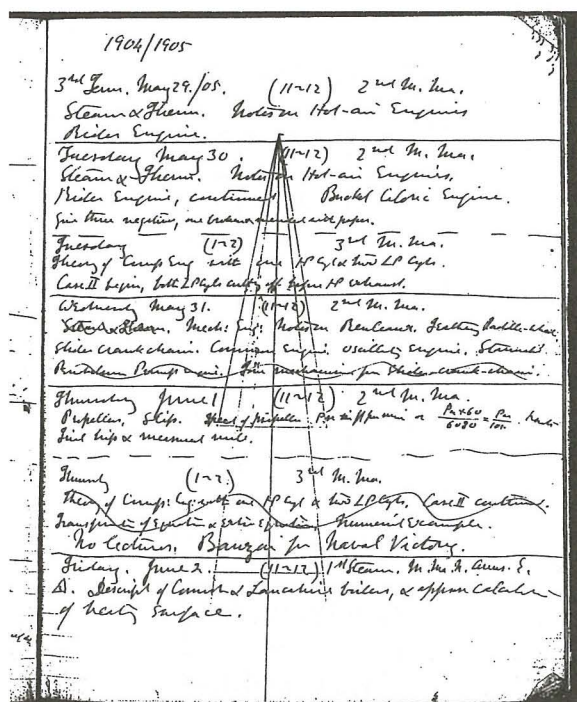


図4 ウェスト講義ノート

明治38(1905)年5月29日～6月2日のページ。6月1日午後の講義は、講義予定の項目を波線で消した下に、「No Lectures, Banzai(万歳) for Naval Victory」と記しています。

「Naval Victory」は日露戦争の日本海海戦の日本海軍の勝利。

トが青年時代に叔母からクリスマスプレゼントとして贈られた本や、来日前に友人から贈られた本など来日以前のものから、来日後のページがまったく切られていない本まで、ウェストの生涯にわたる本が含まれています。

分野としては、ランキン著書をはじめとする機械工学の本や船舶関係など工学関係のものが多くを占めます。またヨット関係の本もかなりあります。本は日本発行のものが若干ありますが、大部分は欧米発行で、英語のものがほとんどです。また年代的にはほとんどがウェストの生存時に発行のもので、最近発行された新刊を入手したという形のものが多いと思われます。

ウェスト文庫の製本雑誌のなかに、英国機械学会のproceedingsがあります。学会創立年の1847年のぶんからありますが、ウェストの生年は偶然にも英国機械学会の創立年と同

じ1847年です。『学術雑誌総合目録』をみるとこの年からの所蔵大学は多くありません。ウェストは明治15年(1882)に英国機械学会会員になっていますが、この年のウェストの名が新会員のひとりとして掲載されている部分をみようとすると、国内ではウェスト文庫をふくめ数大学でしかみることができません。

またウェスト旧蔵ノートは全部で19冊あり、内訳は日本での講義記録4冊、試験問題を貼付したもの4冊、採点記録4冊、その他のものが8冊あります。その他のなかには学生時代のノートや、造船所で働いていた時期の彩色された図が何枚も収録されたノートもあります。

なお、ウェストの25回忌にあたる昭和8年1月10日に、東京・神田の学士会館でウェストをしのぶ会が催されました。『学士会月報』第539号にその記事が掲載されていますが、「式場には故先生の写真愛蔵の書籍手帖等の記念物を陳列した」と記されているので、ウェスト文庫の本と旧蔵ノートが陳列されたようです。また1997年10～12月に開催された東京大学創立120周年記念展にもウェスト文庫の本と旧蔵ノートが展示されました。

ウェストやウェスト文庫・旧蔵ノートについての研究等は現在まだほとんどおこなわれていませんが、ここに紹介した内容や参考文献は、ウェスト文庫の目録などとともに、『御雇外国人教師ウェスト資料集』(滝沢正順編、1998年私家版)に収載しています。

ウェスト文庫・旧蔵ノートの閲覧等については機械系三学科図書室にお問い合わせください。(文中敬称は略させていただきました)

(注1) 磯野直秀『三崎臨海実験所を去来した人たち』、学会出版センター、1988年、50-53頁。

(注2) 鈴木博之「コンドルの肖像画を求めて・下」、『月刊百科』第353号、1992年3月、21頁。